

ウシが食べたい稲WCSはどうやって作る？

～安房地域の稲WCS推進のため水稻生産者向けの現地検討会を開催～

安房農業事務所改良普及課 令和4年7月15日発

令和3年産米の価格下落や肥料価格高騰などにより、水稻生産者は生産コスト削減や飼料用米、稲WCS等への転換など、様々な方策を検討しています。一方で畜産生産者は昨年からの急激な飼料価格高騰を受け、輸入飼料価格の相場に左右されない国産飼料の需要が非常に高まっています。

そこで農業事務所では新たに稲WCSに取り組む水稻生産者、新規のコントラクター組織の育成を目的として、稲WCS栽培技術現地検討会を開催しました。

7月8日に開催した現地検討会には生産者7名、コントラクター2組織が参加し、「市町を越えた需給調整、品質管理の仕組みが必要だ」、「団地化するには人・農地プランの策定が望ましい、関係機関にもっと協力してほしい」といった感想や要望がありました。こうした声を参考に、農業事務所では安房地域の耕畜連携に向け、活動していきます。



意見交換で今後の課題が見えてきました



飼料用イネ専用品種「つきはやか」の堆肥を用いた栽培を見学しました